

8月のお代官様～優待券と招待状

月曜日、会社で海鮮バーベキュー。サザエで乾杯、真夏のビール最高、けど、左のアゴが、少し痛い。お肌の曲がり角で、皮膚が弱いし、メンソレータムかムヒ塗れば治まるよん、なんて油断してたらプツプツ水ぶくれに発達、患部は痒いし熱持ってるし、おまけに首から耳の裏に広がるし、食中毒か流行のアニキサス？



患部は目立つし、周辺の皆さんから脅されて、金曜日の夜、ついに地元の皮膚科へ。判定は、帯状疱疹。しかも重症化する恐れのある部分とかで、1日分のお薬を処方してもらって、翌朝1番診察の優待券を発行。薬の効き目次第で、別の病院を紹介なんて怖いと言われて帰宅。





皮膚科から貰った病気に関するメモによると、帯状疱疹(たいじょうほうしん)は小さな水ぶくれができる病気でヘルペスウイルスが原因、伝染じゃなく神経の中に潜んでいた水ぼうそうウイルスが、老化、内科的疾患、外傷、肉体的疲労、精神ストレスなどで抵抗力が落ちたときに発症するそうです。あと、決定的な治療がなく安静が一番で、水ぼうそうにかかったことのない人に、水ぼうそうとしてうつる可能性があるのです、小さな子どもさんには接触しないよう注意です。周辺の経験者談によると、痛くて夜も眠れないとか、耳から内側に入って顔面神経痛になったとか、チクチク痛いとか激痛が走るとか。ネットで写真見たら恐ろしい状況、帯が身体を一周したら死ぬとか。やめてくれ、こう見えても病院嫌いのビビリですし。



翌朝、土曜日ですから、終了後バドミントンの朝の練習に参加する服装で皮膚科に出頭。優待券ですぐに診察室に通され、薬効かず反発とか言って、枚方の関西医大病院への招待状発行。招待状持参で枚方まで、今行け、すぐ行け…って、心の準備ができてません。



医大生による先行診察からの、本診察。重症化可能性あり。状況次第で即入院、お盆休みは点滴打って過ごすかもで、血液検査して強めの薬を処方して、安静と週明け出頭を命じられました。

練習どころじゃありません。翌日の社会人大会もドタバタして、完治まで2週間から1か月と聞いて、あれこれと予定変更。ご迷惑をおかけした皆さんごめんなさい。

さて、真面目に薬飲んで、ほぼ安静というかお疲れが貯まらない程度にして、運命の日(8月8日・火曜日)関西医大病院に出頭。患部が広がっていないし、快方に向かっているの、あと3日分の薬を出して治療終了という結末です。疲れを貯めないようにして過ごすよう言われて無事解放されました。



優待券と招待状までいただいたのドタバタ、皆さんも気をつけなはれや。带状疱疹は成人の3分の1が、かかる病気だそうです。年齢を重ねたら、疲労やストレスを貯めず平穏に楽しく過ごして抵抗力が落ちないように努めましょう。



写真は、社会復帰第一歩の瀬戸内の旅、淡路島から、徳島、丸亀、高梁周遊。大事に至らなかったのも、ゆっくりと歩いてみました。

平成29年8月16日記

Top
トップ
↑

Back
戻る


[9月のお代官様～菅平](#)